

# 「兵士から見た紛争—リベリア在住シエラレオネ人元兵士のインタビューから—」

岡野 英之 (人間科学研究科 紛争復興開発論)

## リサーチ・クエスチョン

(当初の計画)

西アフリカにおけるシエラレオネ・リベリアにおける各紛争の勃発、継続メカニズムを「青年層」の視点から分析するため、「なぜリベリアにおける武力紛争がシエラレオネへと越境したのか」という問いを元に考察を行う。

(実際に行ったこと)

「なぜシエラレオネにおける武力紛争がリベリアへと越境したのか」という問いに変更。

## 先行研究 1. 紛争はなぜ起こったのか。

- 国内的なプロセス：腐敗の中における個人的利益の追求
- パトロン＝クライアント関係
- その批判としての青年層研究。

## 先行研究 2. 兵士に対する研究

(1) 「青年層」の定義：年齢ではなく社会的なもの。(Richards 1996, Utas 2003)

(2) 兵士に対する既存の研究とその問題点

① 人類学的研究 (Richards 1996, Utas 2003) :

- 興味は「人々」にある。国家に影響するような紛争の大きなダイナミクスは「人々」に影響を与える説明変数として考えられる。

② Political Science の研究 (Weintein 2007, Straus 2006)

- 援助関係者中心の調査：

人類学者による「兵士は自らを語る際に、援助関係者の期待するような答えを行う」という指摘 (Utas)。

- アンケートに基づく定量調査：ひとつひとつの項目に関連性を見出す質的な調査が必要。

- 断片化したひとつのテーマを問うインタビュー：

一連の紛争のダイナミクスの中で兵士がどうふるまったのかわからない。

③ 新たな研究の可能性

- 「兵士はどのように行動したのか」を武装勢力内でパターン化できないか？

## 紛争概要

(1) シエラレオネ紛争

- 1991年 RUF(The Revolutionary United Front)の侵攻から始まる。
- 信頼できない国軍
- 市民による自警団の結成(Tamaboro, Donso, Kapla, Kamajor)
- 1992年：クーデター→軍事政権へ
  - # 政権は二重の敵に直面 (反政府組織、軍部)
- 1996年 紛争中の選挙により、SLPP(Sierra Leone People's Party)のカバー政権(Alhadij Ahmad Tejan Kabbah)誕生～カバー政権による自警団の「政府軍」化
- 1997年5月 国軍の一部がクーデター→AFRC 政権(Armed force Revolutionary Council)
  - 国軍がクーデター起こし、そのあと、RUFを迎え入れ、国軍、RUF 連合政権。
  - リベリア内戦の停戦監視のために駐留していたナイジェリア軍主体の ECOMOG(Economic Community of West African States Monitoring Group)と協力し、シエラレオネへと侵攻。

# このころから自警団の集団は Civil Defense Force(CDF)と呼ばれるようになる。

- ・ 1998年2月 ECOMOG は、フリータウンを奪還し、3月にカパー復帰。  
→そののち、和平合意を経て、紛争終結 (2002)

(2) リベリア紛争

- ・ 第一次紛争：武装勢力 NPFL 侵攻から始まる(1989)。  
その後、多くの武装勢力が現れるが、そのうちのひとつとして ULIMO (United Liberation Movement of Liberia for Democracy)がある。
- ・ 中間期： NPFL のリーダー、チャールズ・テーラー(Charles Taylor)が大統領に。  
→密輸と人権侵害を繰り返す。
- ・ 第二次紛争：テイラー政権に反し、LURD (Liberians United for Reconciliation and Democracy)(2000)と MODEL (Movement for Democracy in Liberia)(2003)という武装勢力が侵攻  
→モンロビアまで侵攻し、テイラーは亡命。その後、三者で和平合意～紛争終結

調査概要

実施期間：2008年9月27日-10月20日  
調査目的：紛争期の兵士の行動についての情報収集

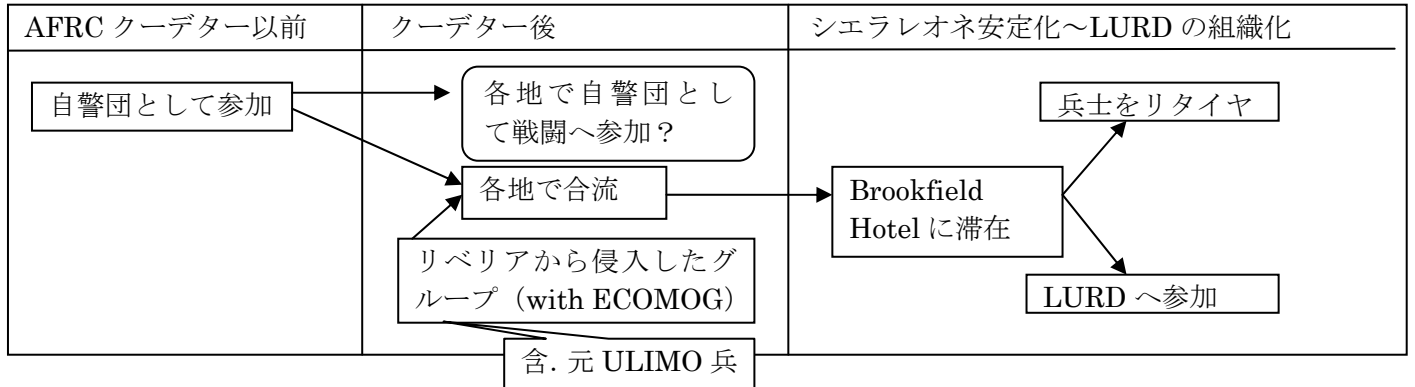
CDF(Civil Defense Force)について

ー 先行研究

- ・ Humpley and Weinstein の研究
- ・ Hoffman の研究
  - (1) CDF を「政府軍」として捉えてはいけない (中央集権的なシステムではない。)
  - (2) Brookfield Hotel

調査内容

ー 8人のライフヒストリーを聴取。



Discussion

- 人員の増大について
- シエラレオネ紛争の場合、同じ紛争でも武装勢力の支配原理は違う
- 国連の報告：CDF は統制がとれない若者集団である
- パトロン・クライアント関係
- 国家の概念

結論と今後の展望

- (1) まとめ
- (2) 今後の調査内容
- (3) 研究手法について フィールドワークという手法を用いた Political Science:人間が見えない→民族誌志向。